

令和7年度

学校関係者評価報告書

令和8年6月

学校法人すみれ学園

四国医療技術専門学校

1. 学校関係者評価委員会開催日時

令和8年6月26日(金)15:00~16:10

2. 出席者

(1) 学校関係者評価委員

泉 秀明	委員長	(土橋共立病院 理事)
久枝 正実	委員	(愛媛県立中央病院 臨床工学部技士長)
白方 三喜	委員	(松山聖陵高等学校 教頭)
谷崎 繭友美	委員	(卒業生)
小川 泉	委員	(在校生保護者)

(2) 四国医療技術専門学校

橋本 加代子	(校長)
梶原 卓哉	(副校長)
岡村 昌子	(医療情報学科 学科長)
井関 厚志	(臨床工学学科 学科長)
岡部 達紀	(事務広報部 部長補佐)

3. 進行

- (1) 開会
- (2) 校長挨拶
- (3) 出席者紹介
- (4) 学校状況報告
- (5) 自己評価結果説明
- (6) 学生アンケート結果について
- (7) 意見交換
- (8) 閉会挨拶

4. 学校関係者評価の実施方法、公表

学校関係者評価の実施にあたっては、自己点検評価の事前送付による内容確認後、学校評価委員会の中で各担当者より詳細の説明を行い、評価結果について意見を頂きました。頂いた意見については、報告書に取りまとめホームページに公表し、今後の教育活動や学校運営の改善に活かします。

令和7年度 学校評価委員会 報告内容

4. 学校状況報告

(1) 医療情報学科 資格取得状況、就職状況、実習実施状況報告

①資格取得状況

医療秘書技能検定 3級 90% 2級 71%
医事コンピュータ技能検定 3級 95%
医師事務作業補助技能認定試験 100%
診療報酬請求事務能力認定試験 81%
調剤事務管理士 90% 介護事務管理士 85%
歯科医療事務管理士 95% 歯科助手講習受講者 67%
電卓検定 100% 秘書技能検定 3級 100% 日商簿記検定 3級 48%
Word 検定 95% Excel 100% PowerPoint 100%

②就職率 100% 卒業者数 21名 就職内定者数 21名

内訳：病院 8名、診療所 7名、調剤薬局 3名、歯科医院 2名、一般企業 1名

③令和8年度に向けた取り組み

現場で即戦力として活躍できる人材の育成を目標とする。電子カルテや医事コンピュータ、DPCの操作能力を高めるとともに、複数の検定取得を目指す。
ボランティア活動を通し、コミュニケーション能力や積極性、思いやりのある接遇を身につけチーム医療に貢献できる医療人を育成する。
引き続き医科、歯科、調剤、介護と幅広い分野の検定合格に向けて指導する。

(2) 臨床工学学科

①国家試験合格率、第二種 ME 技術実力検定、臨床実習、就職状況報告

本校 25名中 22名合格 (88.0%) 内現役生 21/23 (91.3%) 聴講生 1/2 (50%)
全国 2396名中 1573名合格 (65.7%)

②実習状況

実習生数 27名 実習施設 11施設
実習期間は8月4日から10月27日までとし、期間内に27日間の臨床実習を実施した。

③就職状況

21名中 17名内定 (県内：8名 県外：9名) (80.9%)
国家試験受験に集中するため、国家試験合格後就職活動を行っている。

④第46回第二種 ME 技術実力検定試験

2年 (19期生) 22名中 9名合格 (40.9%)
3年 (18期生) 17名中 14名合格 (82.3%)
3年次全体 29名中 26名合格 (89.7%)

⑤今後の課題

今後の課題として、タスク・シフト/シェアや医療 DX に対応できる臨床工学技士の教育が挙げられる。国家試験合格を目指した教育に加え、多職種との連携する力、医療データの管理・活用をする力、AI 等のデジタル技術を適切に評価・活用できる知識の習得を促す教育の充実を図る。

(3) 事務広報部

令和 7 年 4 月入学者数 84 名 医療情報学科 29 名、臨床工学学科 35 名

在学者数 136 名 (令和 7 年 5 月 1 日)

医療情報学科 50 名 臨床工学学科 86 名

5. 自己評価詳細および「成果と課題」

(1) 自己評価結果報告

① 教育理念・目的・育成人材像

成果：教育理念の明文化や教職員への周知、アドミッションポリシーに沿った学生の受入れ体制の確立。

課題：中期的（3～5 年程度）な将来構想や財務的目標の設定・共有について、さらなる具体化と全校的な共通認識の深化が必要。

② 学校運営

成果：教育方針に沿った運営方針の策定と教職員への周知が機能しており、組織的な意思決定ルートを整備。

課題：教育活動の改善に向けた PDCA サイクルの確実な構築、および業務効率化に向けた ICT ツールのより一層の活用における改善。

③ 教育活動

成果：判定会議の開催などによる成績評価の適正・客観的な運用、およびカリキュラムの明文化と学生への開示の徹底。

課題：カリキュラムやシラバスのデータ配付・運用方法において、より学生が利便性を実感できる情報提供方法の工夫。

④ 学修成果

成果：国家試験合格に向けた目標設定や、資格取得率向上のための対策の手厚い実施。

課題：学生自身に主体的な就職目標を立てさせる指導について、低年次からのキャリア意識の醸成を含む、アプローチの強化。

⑤ 学習支援

成果：定期健康診断の実施や、公的支援・学校独自奨学金などの経済的支援体制

課題：中途退学者数・原因の把握とそれに対する防止対策、および健康診断における有所見者への再健診対応。次年度の最重要改善項目として、担任と専門部署が連携した個

別フォロー体制の強化。

⑥ 教育環境

成果：校外実習の教育課程への適切な組み込み、施設・設備の十分な適合性。

課題：施設・設備の定期的点検や修繕において、計画的で迅速な対応ができる体制の維持。

⑦ 学生募集と受入れ

成果：高等学校への情報提供、オープンキャンパスの実施や問い合わせへの対応人員配置など、積極的かつ効果的な募集活動の展開。

⑧ 財務

成果：予算・収支計画の妥当性や適切なチェック体制の整備。

課題：定員充足率の推移把握に比べ、実際の収入と支出のバランスについて、募集活動と連動した財政基盤のさらなる安定化。

⑨ 法令等の遵守

成果：監督官庁への申請・届出、個人情報保護規程の整備と教職員への周知・漏洩防止策自己評価結果の公表ルールなど、コンプライアンスの遵守。

⑩ 社会貢献・地域貢献

成果：学生のボランティア活動への推奨・積極的支援。

課題：公開講座や公共職業訓練等の受託、および研修会等への学校施設・設備の開放。地域・業界に開かれた学校を目指し、施設開放のルール整備や情報発信の強化。

(2) 次年度の改善に向けた基本方針

「コンプライアンスの徹底」「厳格かつ適正な教育評価」「積極的な学生募集」の継続。

次年度に向けては以下の3点を重点課題として取り組みます。

学生フォローの強化：退学率低減に向けた早期の動向把握と、健康面の個別再健診の徹底。地域・業界連携の拡大：学校施設の開放を進め、社会貢献・地域貢献活動の向上。

効率的な学校経営：収支バランスを意識した計画的な予算執行と、業務効率化の推進。

6. 学生アンケート結果報告

令和8年2月に在校生131名（医療情報学科48名、臨床工学科83名）を対象に学生アンケートを実施し、学習状況、学校生活、将来への不安、学校への要望等について調査。

アンケート結果では、専門知識や技術の習得、授業内容の理解度、教員への質問のしやすさなど、教育活動については概ね良好な評価が得られた。一方で、一部の学生からは授業進度や授業説明の分かりやすさについて改善を求める意見があった。

学校生活については、友人との交流や学校行事、実習などに満足している学生が多く、入学後は専門知識や資格取得に加え、コミュニケーション能力や社会人としての基礎力の向上を実感しているとの回答が多く見られた。

将来への不安については、約半数の学生が就職や国家試験、卒業後の進路に不安を感じてお

り、キャリア支援や進路指導のさらなる充実が必要であることが確認された。また、学校行事の充実や学習環境・設備の改善を求める意見も寄せられた。

以上の結果を踏まえ、今後も学生の学習支援、進路支援及び教育環境の充実に継続して取り組んでいくことを報告。

7. 質疑応答

①学生の就職に対する不安について

○委員 学生アンケートでは就職への不安が挙げられていたが、求人倍率や就職率は高い状況であるが不安に関する内容はこういったことがあるのか。

○学校 「就職できるか」ではなく、「自分に合った職場を選べるか」「医療現場で適応し、活躍できるか」という不安が大きい。現場見学や実習を通して働くイメージを持つことが、不安の軽減につながると考えている。

②就職支援・病院見学について

○委員 求人票だけでは職場の雰囲気が伝わりにくい為、医療機関が特色や魅力を紹介する資料を用意することで、学生の職場理解につながる。医療機関側も人材を確保したいので、補足資料を準備する所はあり、見学や体験の機会を積極的に設けることも重要である。

○学校 医療情報学科・臨床工学科ともに、就職に向けた施設見学は、学生が積極的に参加できるよう支援している。今後も医療機関と連携し、機会の充実を図りたい。

③医療機関との連携強化

○委員 学校だけでなく医療機関も人材確保に向けた広報活動へ積極的に協力すべきである。臨床工学技士や医療事務の認知度向上のため、学校と医療機関が連携したPR活動が必要である。愛媛県の臨床工学技士会ではお仕事フェスタに参加することで中学生から仕事をしていただくような働きかけをしている。

○学校 高校訪問や体験会などを継続するとともに、医療機関や関係団体との連携をさらに強化していく。

④実習・キャリア教育について

○委員 実習先の特徴や魅力を学生へ伝える機会を設けることで、進路選択の参考になる。実習や病院見学は学生の学習意欲向上にもつながるため、充実を期待する。

○学校 実習や見学を通じて職業理解を深められるよう、医療機関の協力を得ながら教育内容の充実を図る。

⑤SNSを活用した情報発信

○委員 SNSの発信は積極的に行われているが、実習風景やユニフォーム姿など、医療職を目指すイメージが伝わる内容を増やすとより効果的である。

○学校 委員からの意見を参考に、学校の魅力や教育内容がより伝わる情報発信に取り組む。

⑥ボランティア・地域連携について

○委員 医療・福祉現場での体験やボランティア活動は、思いやりやコミュニケーション能

力の育成につながる。地域や医療・福祉施設と連携し、学生が幅広い現場を経験できる機会を増やしてほしい。

○学校 ボランティア活動や地域連携を推進し、医療・福祉への理解を深める教育活動を充実させていく。

◎総括

委員からは、学生の就職不安の軽減に向けたキャリア支援、医療機関との連携強化、実習・見学機会の充実、SNSによる情報発信及びボランティア活動の推進について、多くの建設的な意見・提案があった。学校としては、これらの意見を今後の教育活動及び学校運営の改善に活かしていくことを確認した。